

令和5年度 行田市公共下水道事業会計 決算について

事業概要

項 目	単 位	令和5年度	令和4年度	前 年 度 と の 比 較	
				増 減	比率 (%)
年度末処理区域内人口 (A)	人	45,146	45,099	47	0.10
年度末行政区域内人口 (B)	人	78,135	78,550	△ 415	△ 0.53
普及率 (A) / (B)	%	57.78	57.41	0.37	—
年度末水洗化人口 (C)	人	40,502	40,579	△ 77	△ 0.19
水洗化率 (C) / (A)	%	89.71	89.98	△ 0.27	—
年間汚水処理水量 (D)	m ³	6,988,085	7,360,467	△ 372,382	△ 5.06
年間有収水量 (E)	m ³	4,644,871	4,854,827	△ 209,956	△ 4.32
有収率 (E) / (D)	%	66.47	65.96	0.51	—

収益的収支【営業活動の結果】

下水道使用料や一般会計繰入金などの収入と、
施設の維持管理や汚水処理に要する経費

()はR4決算 (税抜き)

収入額 1,632,059千円 (R4決算 1,708,674千円)

下水道使用料等
508,692千円
(543,431千円)

一般会計繰入金
798,900千円
(839,800千円)

長期前受金戻入
324,467千円
(325,443千円)

支出額 1,530,407千円 (R4決算 1,574,680千円)

維持管理費等
291,018千円
(304,015千円)

流域下水道維持
管理負担金
241,407千円
(254,271千円)

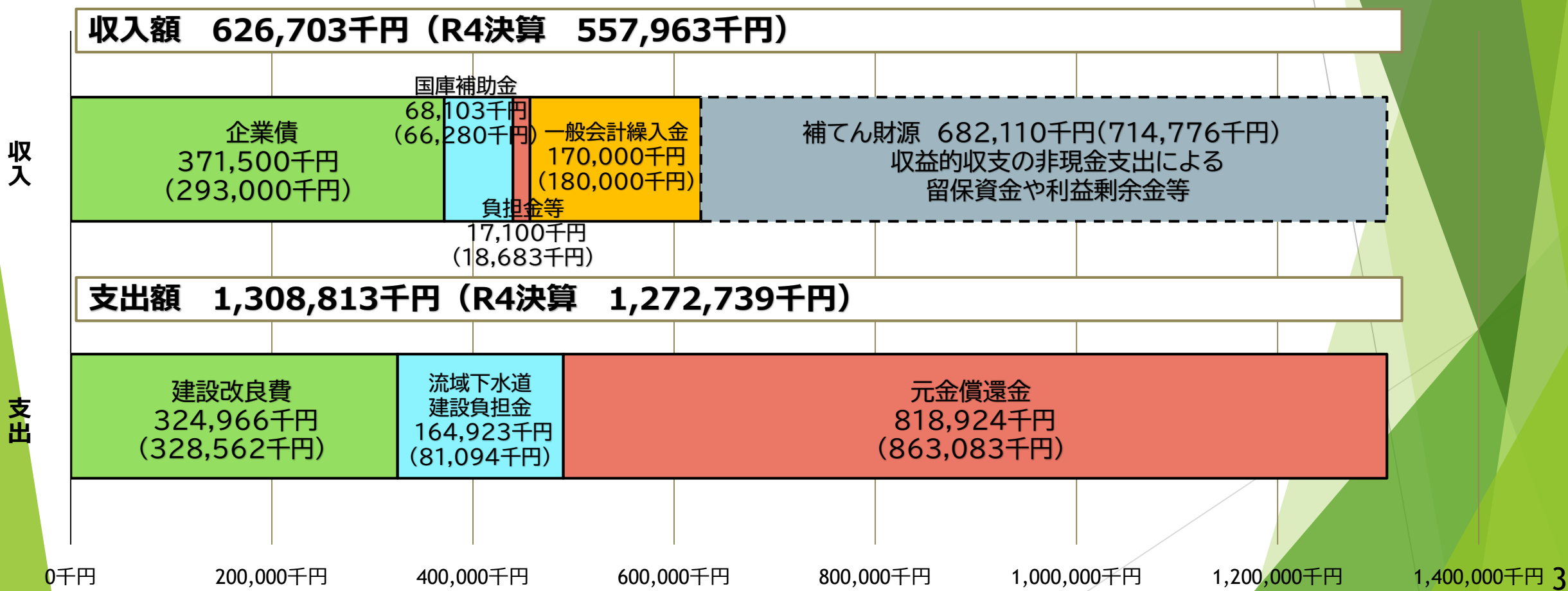
減価償却費
872,049千円
(874,105千円)

支払利息
125,933千円
(142,289千円)

純利益
101,652千円
(133,994千円)

資本的収支【建設部門の結果】

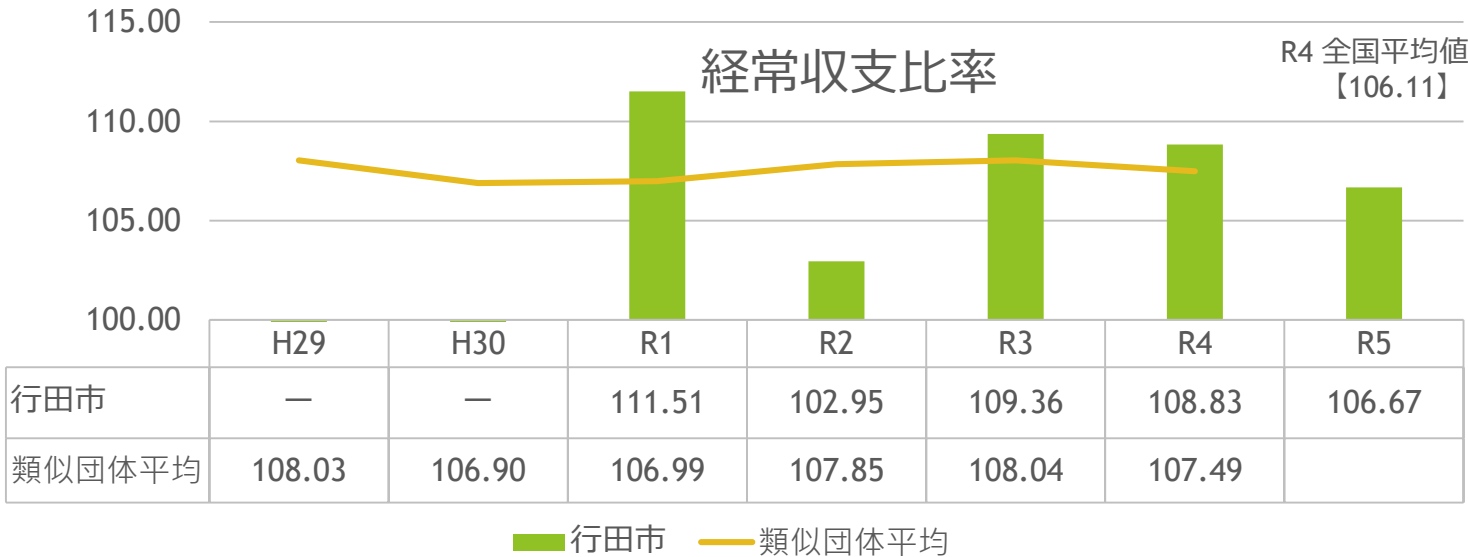
下水道管布設等の建設改良費や企業債元金償還金と
それらの経費に充てる企業債や国庫補助金、一般会計繰入金など ()はR4決算 (税込み)



令和5年度に行った事業内容

- ▶ 建設改良工事を44件実施（421,930千円）
- ▶ スtockマネジメント計画に基づく点検・調査業務委託を2件実施（6,277千円）
- ▶ 行田公共下水道事業全体計画の見直し（令和5～6年度）
- ▶ 下水道使用料の適正化に関する検討

経営分析①

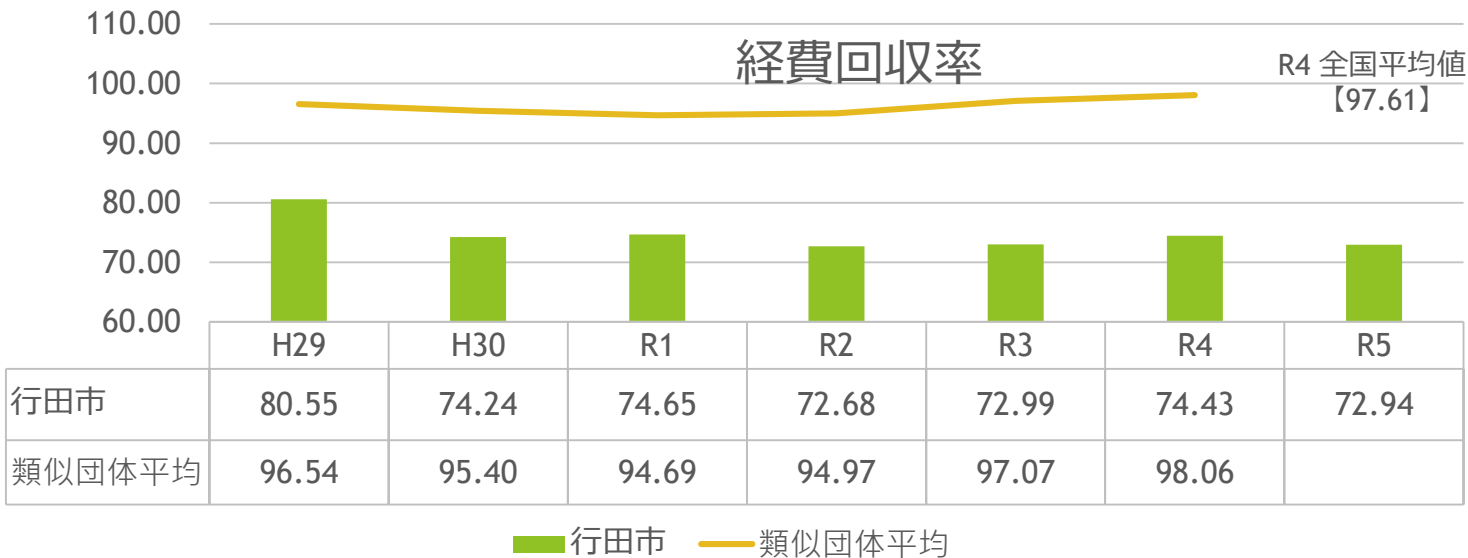


指標の意味

総収益で維持管理費や支払利息等の総費用をどの程度賄えているかを示す指標。100%を超えているときは、収支が黒字であることを意味する。

行田市の状況

黒字ではあるものの減少傾向で、一般会計からの繰入金への依存もあるため、厳しい状況である。



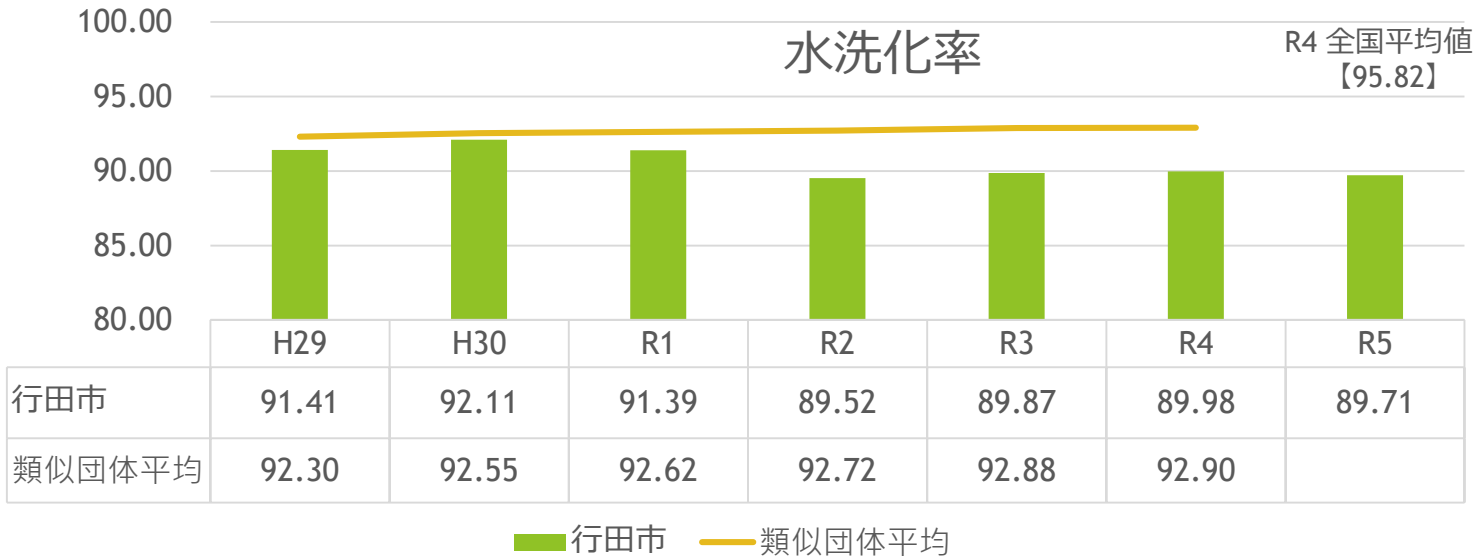
指標の意味

汚水処理に要した経費を、使用料収入でどの程度賄えているかを示した指標。100%を超えてときは、適正な使用料が確保されていることになる。

行田市の状況

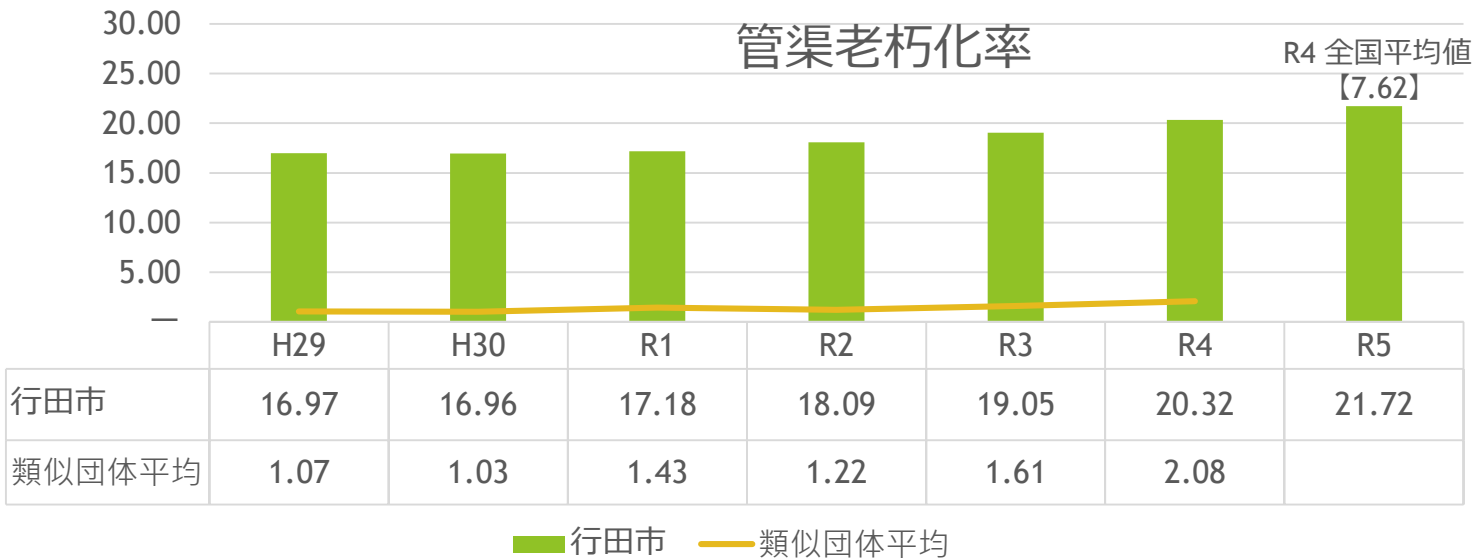
100%を大きく下回っている。
また、類似団体平均と比較しても低い値となっている。

経営分析②



指標の意味
処理区域内人口のうち、公共下水道を使用して汚水処理をしている人口の割合を示す指標で100%となることが理想。

行田市の状況
令和2年度に減少したが、その後は横ばいの傾向が続いている。



指標の意味
法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表し、管渠老朽化度合を示す指標。

行田市の状況
類似団体平均と比較して大きく上回っている。これは、本市の下水道事業が全国的にも早期である昭和25年に事業開始しているためである。